助けを
必要とする人々を
支援する

2022年　年次報告書

末日聖徒イエス・キリスト教会

目次

3　大管長会からのメッセージ

4　取り組みの概要

助けを必要とする人々を支援する

8　与える決意

10 教会員と地域社会に奉仕する宣教師たち

12 避け所を提供する

14 行動する子供と青少年

JUSTSERVE（ジャストサーブ）

16 地元における JustServe（ジャストサーブ）

18 宗教間の協力

ワールドワイド・エイド

20 世界規模の取り組み

22 アフリカ／中東

24 アジア／オーストラリア／太平洋諸島

26 ヨーロッパ

28 北アメリカ

30 南アメリカ／中央アメリカ／カリブ海地域

自立を育む

34 環境に対する管理責任

35 教育プログラム

36 食料の生産と配布

38 ファミリーサービス

39 自立コース

40 雇用サービスと デゼレト産業

42 トランジショナル・サービス

わたしにできること

44 地域社会での奉仕

46 さらに学ぶためのリソース

参照文献

表紙の画像—ShelterBox—*サイクロンの被災地，バヌアツの自宅で道具を手に腰かけ，地域社会での奉仕に備えるスーザン*

上—ラッセル・M・ネルソン大管長と二人の顧問，ダリン・H・オークス管長およびヘンリー・B・アイリング管長

愛する友人の皆さん，

助けを必要とする人々を支援することに関して，イエス・キリストは完璧な模範です。主に従う者として，わたしたちは神と世界中の隣人を愛するように努めています。末日聖徒イエス・キリスト教会は，人々を祝福し，助けを必要としている方々に手を差し伸べたいと，切に願っています。わたしたちはこの神聖な責任を果たすに当たり，能力およびリソース，また信頼関係で結ばれた世界的協力団体に恵まれています。わたしたちはこの務めを，喜ばしい特権と考えています。

わたしたちが心を尽くして神を愛するとき，神はわたしたちの心をほかの人々の福利に向けてくださり，美しい好循環が生まれるのです。わたしたちの世界は，紛争，飢え，病気，災害，貧困，パンデミック，人間の基本的ニーズにかかわる格差など，様々なチャレンジに満ちています。何が起ころうと，わたしたちは人々の善意を信じ，信頼しています。

神の子供たちの必要に応えるわたしたちの働きに関して，この年次報告書を分かち合えることをうれしく思っています。わたしたちが皆でともに 人々の支援に取り組むに当たって，教会員や友人たちが無私の奉仕をしてくださること，また時間や資金をはじめとするリソースを提供してくださることに心から感謝しています。

わたしたちは引き続き，奉仕を通じて愛し合い，強め合いつつ，この重要な業に携わるようすべての人をお招きします。

大管長会

Russell M. Nelson
Dallin H. Oaks
Henry B. Eyring

「二つの偉大な戒めが導きとなります。第一に，神を愛すること，
そして第二に，隣人を愛することです。奉仕によって愛を表すのです。」

—ラッセル・M・ネルソン大管長，末日聖徒イエス・キリスト教会大管長[1]

3,692 件

2022 年度に行われた人道支援プロジェクトの件数

10 億 2,000 万米ドル

支出金額

630 万時間

ボランティアが提供した時間

190

奉仕を行った国と地域の数

10 億 2,000 万米ドル

が以下を通じて，助けの必要な人々に手を差し伸べるために用いられました：

おもに教会員を対象に提供されるサービス

- **断食献金による援助—** 助けの必要な人々に，一時的な財政援助を提供。
- **ビショップによる物品の注文—**助けの必要な人々に，ビショップの倉およびデゼレト産業の店舗から食料品や日用品を提供することを含む。
- **教会運営機関—**ファミリーサービスによるカウンセリング，雇用センター，農場および食品加工施設，デゼレト産業など。

一般に提供されるサービス

- **人道支援プロジェクト—**世界中の地域社会における慈善支援など。
- **生活必需品の寄付—** フードバンクその他の機関を通じて地域社会に提供。教会が生産した物品を含む。
- **衣類の寄付—** デゼレト産業に割引価格または無償で提供された衣服 など。

ボランティアたちは

630 万時間

以上働いて，以下の奉仕に携わりました：

- **教会施設における奉仕—** 農場，果樹園，缶詰工場，デゼレト産業店舗など。
- **助けの必要な人々の世話をする務め—**世界中の多くの国々における ボランティア活動など。
- **教会主催の地域奉仕プロジェクト—** 自然災害発生後の清掃など。

そのほか，JustServe（ジャストサーブ）は 13 万 511 件以上のボランティアプロジェクト（1 万 6,285 件の新規プロジェクトを含む）を推し進めました。

2022

助けを必要とする人々を支援する

会員と宣教師による奉仕

174 件
難民対応プロジェクト

1 万 1,030 人
福祉・自立宣教師

JUSTSERVE（ジャストサーブ）

地域社会での奉仕を可能とするプラットフォーム

6 万 9,115 人
JustServe の新規登録ユーザー

1 万 6,285 件
JustServe による新規プロジェクト

ワールドワイド・エイド

世界規模の人道支援にかかわる取り組み

520 件
食糧安全保障プロジェクト

54 件
モビリティ（移動支援）プロジェクト

156 件
クリーンウォータープロジェクト

42 件
視力ケアプロジェクト

45 件
妊婦ケアプロジェクト

483 件
緊急時対応プロジェクト

自立を育む

プログラムとサービス

439 件
教育プロジェクト

10 万 6,261 人
自立コース参加者

525 回
依存症立ち直り週例集会の開催数

9,186 人
デゼレト産業で働いた人

助けを必要とする人々を支援する

「世界中で，末日聖徒イエス・キリスト教会の会員は，助けの必要な人々に手を差し伸べようと，時間や才能，リソースを提供することに喜びを見いだしています。そうすることが好都合ではない，あるいは容易ではないことが多々ありながらもです。わたしたちは，主の第二の大切な戒めに従って生活する中で，イエス・キリストのより良い弟子となる機会があることに感謝しています。」

—J・アネット・デニス姉妹，中央扶助協会会長会第一顧問

末日聖徒イエス・キリスト教会の会員は，神を愛し，隣人を愛するようにという救い主の二つの大切な戒めに従うべきであると信じています。

ミニスタリングとは，だれかの必要を知り，その必要にこたえるという意味です。地元の教会の人々にミニスタリングを行うことに加え，わたしたちは地域社会での奉仕やその他のプロジェクトを通じて，信仰を異にする人々に奉仕する機会を祈り求めています。

わたしたちは，場所，人種，国籍，性別，宗教的信条，あるいは政治的所属を問わず，また見返りを期待せず，助けの必要な人々を支援することにおいてイエス・キリストの模範に従おうと努めているのです。

与える決意

教会での奉仕

神を愛し，隣人を愛するという聖約の一環として，教会員は毎月，一日断食をしてます。抜いた食事に相当する金額を惜しみなく献金することにより，助けの必要な会員たちに役立ててもらうのです。

そのほか，教会員は自分の時間や才能，思いやり，物資，金銭的な援助を差し出します。このようなささげ物は，主の子供たちを助けるためのリソース，「主の倉」の一部となります。

末日聖徒イエス・キリスト教会の会員として，持てるリソースを分かち合い，奉仕して人々に愛を示すことは，わたしたちの信条の根幹を成すものであり，それは教会の初期の時代から 変わっていません。

扶助協会は，助けの必要な状態にある個人や家族を世話する責任を担う女性の組織です。1842 年に設立されたこの組織は，何世代にもわたり，助けの必要な人にミニスタリングしようと働く教会員を導いてきました。2022 年，この慈悲深い行いへの献身は，扶助協会創立 180 周年を祝って世界中で行われた奉仕プロジェクトの日に称えられました。

教会員にとって，こうした奉仕は自然なことであり，表彰や報いを期待することなく行われます。ドイツの教会員であるキムは，奉仕に対する会員の意欲を要約し，こう述べています。「主の倉とは，人種や宗教，状況に関係なく，自らの時間や才能，スキル，物質的な手段を喜んでささげ，ほかの人を助ける人々を指します。主の倉の一部であることは，身の引き締まる思いです。」[2]

上—トンガの人々を助けるために必要な物を集め，寄付している地域の会員たち

「教会の人道支援活動は……贈り物です。それは，聖徒たちが共同で行う聖別されたささげ物であり，神と神の子供たちに対するわたしたちの愛の現れなのです。」

—L・タッド・バッジビショップ，管理ビショップリック第二顧問[3]

あらゆる人への奉仕

昨年，コロンビアに暮らす教会の会員たちは，Casa Hermana Helena Foundation（カーサ・エルマーナ・エレナ財団）を組織し，寄付を募りました。これらの寄付金により，見捨てられていた少女たちは，新たな生活に順応する中で安心感を得，愛を感じられるようになりました。

太平洋地域では，トンガが地震と近くの火山噴火，そして津波の影響を受けた後，末日聖徒は力を合わせて隣人を支援しました。その地域の会員たちは地域社会とともに働き，食料や衣類，水，衛生用品，機器を寄付して集め，トンガの人々を助けました。これには，タヒチからの物資 300 トンも含まれています。

暴風雪により，アメリカ合衆国アイダホ州で何十人もの大人と子供が立ち往生したとき，地元の教会員らは集会所を開放しました。彼らは地域社会と手を取り合い，旅行者に温かい食事を提供しただけでなく，嵐が通過し道路が再び開通するまでの支援として，おもちゃや粉ミルク，その他必需品の寄付を募ったのです。

2022 年，教会員によるアメリカ赤十字社への献血は 100 万単位を超え，推定 300 万人に達しました。同様の献血運動が，全世界の様々な地域で，会員によって 組織されています。

多くの教会員は地元の地域社会で奉仕していますが，中には，さらに多くの時間を人道支援活動に充てることを選ぶ人もいます。独身の若い男性や女性の多くがパートタイムで奉仕宣教師の役割を果たし，地域社会で奉仕および人道支援プロジェクトを立ち上げ，携わっています。

夫婦は，フルタイムの福祉・自立宣教師として奉仕するという選択肢があります。こうした夫婦は，割り当てられた地域における人道支援プロジェクトの運営に自分たちの時間をささげています。

フルタイムで伝道する宣教師も，救い主について教える働きとは別に，教え導く務めの一環として奉仕プロジェクトに参加しています。こうした宣教師は，緊急事態が発生した際に緊急対応の取り組みを支援します。

教会員と地域社会に奉仕する宣教師たち

奉仕の取り組み

世界中の何百人もの宣教師が，人生の数か月をささげ，助けの必要な人々を支援する業を実行に移しています。

トーマス夫妻のように，教会員が自立の度合いを高められるよう支援する，雇用サービス関連の業務に携わる人々もいます。彼らは面接の指導を行い，履歴書の作成を支援し，求職中の人々にネットワーキングの機会を提供しています。また，割り当てられた地域で人道支援プロジェクトを割り出し，運営することにより，広く地域社会に奉仕している人々もいます。例として，クリステンセン長老は，家を失った母親たちに向け，仕立ての仕事と訓練を提供するイタリアの会社，Colori Vivi（コロリ・ビビ）と教会との連携を調整しています。

災害時の救援

宣教師は，緊急事態その他の災害時に支援を提供するよう求められることが多々あります。ポーランドにおいて，フット夫妻（人道奉仕に携わる夫婦宣教師）は，駅に到着した多くの避難民が重い買い物袋やリュックサックに詰めたたくさんの持ち物を引きずっているのに気づき，その重荷を軽くする手助けをしました。必要な人に役立ててもらえるよう，フット夫妻は寄付されたローリングスーツケースを配り始めたのです。ある時は，一日で 60 個ものスーツケースを手渡したこともあります。

宣教師たちはカナダからアメリカ合衆国ミネソタ州の小さな町まで，6 時間車を走らせ，数回におよんだ洪水後の救援活動を取りまとめました。1 か

上— *西アフリカのガーナにて，人々に奉仕する二人の宣教師*

上—香港における奉仕プロジェクトで食事の準備を手伝う宣教師たち

「今こそ，ほかの人々を祝福し，『なえた手……を，まっすぐに』できる時なのです。」

—ラッセル・M・ネルソン大管長[5]

月の間，その地域の宣教師やボランティアたちは 1 日に 12 時間から 14 時間働き，被災地の家々や会社の周囲に土のうを置きました。

これらは，宣教師たちが毎年行う多くの奉仕のうち，ほんの数例にすぎません。こうした小さな行いが積み重なって，重荷が軽くなり，希望が取り戻されるのです。

「この作業は，肉体的にも精神的にも疲れるものです」とフット姉妹は語ります。「しかし，彼らの目に新たな希望が，光がさすのを目の当たりにすることができます。自分がだれかの重荷を軽くしたことが分かるのです。すべてがとても価値あることなのです。」[4]

地域社会での奉仕

宣教師は地域社会で奉仕することに関して，週に 4 － 40 時間を費やすように勧められています。例として，エクアドルの宣教師たちは，放置された土地からがれきを取り除くために時間と労力をささげ，カトリックの礼拝堂を建てられるようにしました。建物が完成したら，宣教師たちは毎週，地域社会のために無料の英会話クラスを開催する予定です。

家を追われた人々の窮状には，わたしたちの心に感じるものがあります。わたしたちは支援プロジェクトのみならず，会員がもたらす奉仕や思いやりを通じて，見知らぬ人を迎え入れるようにというキリストの指示に従おうと努めているのです。

教会歴史の初期にあって，教会員は宗教的不寛容のために何度も家を追われました。この「難民の受け継ぎ」は，今日を生きる多くの教会員が，避け所を求めている人々を助けるべく，できるかぎりの支援を提供せずにはいられないと感じる理由の一つなのです。

避け所を提供する

2022 年，世界では自然災害や武力衝突により，家を追われた人々の数が劇的に増加しました。難民支援プログラムに対する多額の寄付のほか，教会員は地域社会で働き，行き場を失った人々を支援しました。「人々への愛，助けたいという思いには，見ていて圧倒されるばかりです」と，オーストリアの教会員であるジュリアは言います。「人々は互いに心を寄せ合っています。」[6]

地元における支援

世界中で，末日聖徒は地元の避難所におけるボランティア活動を行い，地域社会の人々と力を合わせ，ほんとうに必要な食料品，衣類，衛生用品，医療用品その他の必需品を寄付し，集め，仕分け，梱包し，届けました。こうした寄付は，ヨーロッパやアフリカでの紛争，カリブ海および太平洋での地震や熱帯暴風雨，アジアおよび中東での洪水，その他の原因で住む所を失った人々のために役立てられました。カナダでは，教会員が地域社会に向けて伝統的なウクライナの夕食会を主催し，難民支援活動のための資金集めを行いました。

情緒的支援

心理的応急処置としても知られる情緒的支援は，危機に陥った人々にとって重要な支援です。2022 年，ポルトガルの教会員であるアントニオは，地元の難民収容施設で奉仕していました。その奉仕の一環として，アントニオは心理的応急処置の研修を受けました。彼は研修を通して，自分が奉仕する相手に思いやりを示し，つながりを持つ方法を学んだのです。自分の気持ちを述べる人々の言葉に耳を傾けながら，アントニオは共感し，希望を与え，対処法を提案する準備ができていることを実感しました。

ヨーロッパにおける対応

ウクライナで武力衝突が勃発した後，ヨーロッパの教会員は，人々に奉仕するという自らの決意を示しました。彼らは紛争によって住む家を失った

上—イギリス・ハダーズフィールドステーク扶助協会会長として奉仕しながら，2016 年にフランスのダンケルクで難民の家族を支援するボランティア活動を行ったアリソン・ブーム（中央）写真／イギリス・ハダーズフィールドステークならびにチャーチニュースの厚意により掲載

上—ヨーロッパの別の国に避難所を見つけたウクライナ人の家族

「末日聖徒イエス・キリスト教会は，USA for UNHCR にとって最も信頼できる長年のパートナーの一つです。わたしたちは力を合わせて，迫害や紛争，暴力によって強制的に故郷を追われた1億人以上の人々のために，希望と安全と尊厳を取り戻し続けます。」

—レイシー・ストーン，
パートナーシップ・ディレクター，
USA FOR UNHCR

人々のために，何千もの寝床を用意しました。その多くは彼らの自宅内です。教会は，国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）やイエズス会難民サービス（Jesuit Refugee Services）といった難民支援組織と緊密に連携し，難民が当面の必要を満たすサービスを受けられるようにしました。ヨーロッパでは，新たに到着したウクライナ人たちが，彼らの言語を話せる教会員らの働きにより，地元の政府機関に支援を求めて連絡を取り合うことができました。

宣教師もまた，世界各地で難民の救援活動に参加しました。彼らはポーランド，ハンガリー，ルーマニアの一時収容施設でボランティア活動を行い，言語支援，施設の清掃，食事の提供，寄付されたものの仕分けを行いました。ドイツでは宣教師が駅に派遣され，自分たちの話す言語および提供可能な支援を示すプラカードを掲げました。

「これは自然なことです」と，ポーランドの教会員，シルビアは語ります。「助けを必要としている人を見たら，皆さんは助けます。……教会員であるかどうかは関係ありません。〔天の御父は〕すべての人を愛しておられるのです。」[7]

かつてないほど世界とつながり，世界で起きていることを認識している若者たちには，助けたいという望みがあります。教会の子供と青少年は，世界中の地域社会で積極的に奉仕に携わっています。教会の指導者たちが地元の青少年グループを指導する中，子供と青少年は自ら奉仕プロジェクトを計画し，参加しています。

子供と青少年は，霊感を求めて祈ることによって，自分で奉仕の機会を探すよう勧められています。こうした活動は，教会の子供と青少年が成長し，さらに救い主に似た者となるよう助けることを目的としているのです。

「神の子供たちは皆，知識と能力の限り，神とお互いに仕えるように啓発され〔てい〕ます。」

—ダリン・H・オークス管長
大管長会第一顧問 [9]

行動する子供と青少年

2022 年, 世界中の教会の若人が，同胞の男女を助けようと多くのプロジェクトを立ち上げ，参加しました。

エチオピアでは, 地域社会で助けを必要としている人々に食物を提供する目的で，70 人の若い男性および若い女性が 6 週間かけて果樹を植えました。このプロジェクトを手伝った若い女性の一人であるハナは，こう語っています。「神様について，奉仕し，互いに愛し合うことについて教えてくれるものでした。この経験を決して忘れません。」[8]

イタリアでは, 14 歳から 30 歳までの若者たちがミラノ市内を回り，ウクライナからの避難民を助けるうえで必要な物資のリストを配布しました。これにより，地域から 551 箱分におよぶたくさんの品物が寄付されることとなり，若者たちは寄付品を梱包して準備を整えました。

アメリカ合衆国では, 幼い子供たちとその家族が集まり，マサチューセッツ州の幾つもの墓地を清掃しました。参加者のうち 3 人の子供は祖父と一緒に墓を掃除しましたが，皆で働き，先祖について語り合う経験を通じて，互いの仲が深まったそうです。

フィジーでは教会の若い男性および若い女性 60 人が，ロマニコロ村にあるジョサイア・メソジスト教会を再塗装することで，地域社会へ奉仕しました。彼らは 6 時間を費やし，200 人を超える信者のための聖所としての役割を果たす建物の壁をきれいにして，ペンキを塗りました。

JustServe（ジャストサーブ）

「JustServe（ジャストサーブ）は単なるプログラムやウェブサイトではなく，わたしたちが聖約にふさわしい生活を送ることができるようにしてくれる活動であり，手段です。多くの会員が地域社会で奉仕したいと思っていますが，どのように始めればよいのか分からないこともあるでしょう。JustServe を活用すれば，自分の関心や都合に合った奉仕の機会を見つけることができます。JustServe は人々に方向性を示してくれます。また，地域社会を祝福し，強めるような奉仕プロジェクトにつながるよう助けてくれるのです。」

—ジェラルド・コセービショップ，管理ビショップ[10]

上—テキサス州ヒューストンにて，無料の眼科検診後に眼鏡をかけてあげる検眼医

地元における JustServe（ジャストサーブ）

- **JustServe を利用可能な国：14 か国**
- **2022 年の新規登録ユーザー数：6 万 9,115 人**
- **利用組織の合計：1 万 4,061**

仕え合うことのほかに，教会員は地域社会全体の奉仕に参加し，ほかの人々を巻き込むように努めています。教会員はあらゆる背景を持つ人々と協力して，地元の問題を解決し，友情の手を差し伸べます。

この目標を達成する一助として，教会は地域社会での奉仕を可能とするオンラインのプラットフォーム，JustServe（ジャストサーブ）を運営し，個人が居住地域内における地元のプロジェクトとつながりを持てるようにしています。JustServe を通じて，ボランティアは対面およびリモート，両方の奉仕の機会を見つけることができます。また組織側は，奉仕の目標を達するうえで必要な支援を得ることができるのです。

JustServe は，地元のプロジェクトに協力し，地域社会とかかわりを持つように奨励しています。あらゆる組織の人々—または組織に属さない人々—が，協力し合い，頼り合い，また最も重要なこととして，奉仕する中で互いへの愛を育むのです。

2022 年には，1 万 6,285 件のプロジェクトがプラットフォームに追加され，多くの人がチームを組んで地域社会ですばらしい働きを成し遂げました。ジェームズは JustServe を利用することで，ニューキスキヤ・クリスチャンスクールが必要としていた，重要な物品を受け取りました。ハイチに位置する，自身が校長を務める学校です。カリフォルニア州サンバーナーディーノのボランティアグループは JustServe を活用し，書籍や顕微鏡，人体骨格や太陽系の模型といった寄贈品を集めました。JustServe のボランティアから電話がかかってくるまで，生徒たちのために必要な物品をどのように調達すればよいか見当もつかなかったジェームズは，これこそ祈りの答えであると感じました。

スーザンは，アイダホフォールズの地域社会で JustServe プロジェクトの調整を図り，地元の高齢者介護施設の入居者にあてて，（多くの子供を含む）ボランティアからバレンタインカードを書いてもらいました。この 5,050 通におよぶバレンタインカードを届ける中で，スーザンはボニーとの友情を深めることになります。バレンタインカードとピンクのバラを手渡されたボニーは，感動の涙を流したのです。

ドイツでは，フランクフルトおよびフリードリヒスドルフの地元の教会員らが，ウクライナからその地域にやってきた避難民のためにプロジェクトを立ち上げました。フランクフルトにあるカリタスホームレス施設では，ウクライナの紛争から逃れてきた数家族を受け入れており，20 人の女性が集まって施設内の家具のペンキ塗りをしました。施設を明るくし，困難な時期を過ごしている各家族の気持ちを高められたらと，彼女たちは家具を明るい色で塗装することにしました。このプロジェクトにより，女性たちは施設にいる家族と友情を築き，危機的状況にある彼らに幾らかの希望をもたらすことができたのです。

JustServe を利用可能な地域では，右の QR コードから JustServe アプリをダウンロードして，地域社会の奉仕プロジェクトに参加することができます。

上—*香港で自転車の修理に取りかかる男性*

奉仕によって喜びを見いだす

まれながんと診断されたパティーは，JustServe のウェブサイトにアクセスし，がん治療を受けに行く往復の長いドライブの間にできそうなプロジェクトを探しました。そして，ソルトレーク・シティーにあるプライマリー・チルドレンズ病院で行われる，小児患者のための募金活動，「フェスティバル・オブ・ツリーズ」に向けて枕カバーを縫うというプロジェクトにたどり着きました。

パティーは奉仕をする中で，人助けへの意欲あふれるボランティア仲間のネットワークを築き始め，さらに良い影響を与えるようになりました。2022 年 1 月に亡くなる前，パティーは奉仕によってもたらされた喜びについてこう語りました。「大きな喜びと感謝の気持ちを抱きつつ，わたしは旅立ちます。」[11]

上—オレゴン州ポートランドでの宗教を超えたごみ拾いデー。ボランティアが集まって 230 – 270 キロのごみを集めた

「ますます二極化が進む時代にあって……隣人が持つ信仰の観点や霊性に興味を抱き，理解することで，わたしたちはより良い隣人になることができます。」

—レン・ジーラク
Edmonton Interfaith Centre for Education and Action（エドモントン教育・行動諸宗教センター）[12]

宗教間の協力

- **アメリカ合衆国／カナダにおける諸宗教団体との協力プロジェクト：554 件**
- **国際的な諸宗教団体との協力プロジェクト：225 件**

JUSTSERVE（ジャストサーブ）は，多様な人々が集うコミュニティーに対し，皆が協力し，奉仕し合う 機会を提供しています。どのような宗教の信者であれ，プラットフォームを活用してプロジェクトに参加したり，計画したりする機会が用意されているのです。

オレゴン州の例では，JustServe が地元の末日聖徒の会衆と，ビラル・マスジッド・モスクをはじめとする，地域の幾つかの宗教団体とを結びつけました。これらのグループは一致してごみ清掃の日を計画し，破壊行為が数回発生した後の町の美化を支援しました。宗教の違いを超えて人々がともに奉仕し，将来の協力体制につながる新たな友情を築いたのです。

カリフォルニアでは，6 つの異なる宗派および地元の非営利団体 James Storehouse（ジェームズ・ストアハウス）が，末日聖徒と手を取り合い，200 着以上のドレス，靴，セーター，スカート，ビジネスジャケット，化粧品，さらには何百通もの励ましの手紙を集めました。集まった品々は，児童養護施設にいる若い女性のために寄付され，今後予定されている学校のダンスパーティーや就職面接の際に着る服が確保されたのです。ボランティアたちは，若い女性たちが面接のスキルを磨き，地域社会の人々と交流を図ることができるように，「Beautiful You」（美しいあなた）のイベントを主催しました。

ユタでは，復活の聖公会や聖オラフカトリック教会，バウンティフル・コミュニティー教会，また地元の末日聖徒の女性たちが集まり，毎年恒例の「Women of Faith Service Project」（信仰の女性奉仕プロジェクト）に参加しました。45 分もすると，ボランティアたちは地域社会の人々のためにクラフト用品や毛布，衛生用品，その他の品々をトラックいっぱいに積み終わりました。

ワールドワイド・エイド

「今年も非常に困難ではありましたが，ケア〔訳注—CARE。人道支援活動を行うNGO〕と末日聖徒イエス・キリスト教会との貴重な協力関係により，引き続き重大な隔たりを埋め，不安定な地域社会の必要を満たすことができています。この世の人々に助けと希望をもたらそうと，惜しみなく与えてくださる末日聖徒イエス・キリスト教会の会員の皆さんに感謝しています。」

—ミッシェル・ヌン，CARE USA 会長兼 CEO

世界規模の取り組み

- **プロジェクトを実施した世界の国と地域：157**
- **2022 年の協力団体：2,629**
- **小児栄養プロジェクトの資金提供先：46**
- **世界規模の主要な予防接種プロジェクトの資金提供先：6**

わたしたちが信じているのは，あらゆる人が栄養価の高い食物や清潔な水，質の高い教育，医療を得られるようにすべきであるということです。これらの問題に対する多くの解決策は，世界中で教会の様々な管理地域が計画し，管理する取り組みによって対処されています。それに加えて，教会は毎年，世界規模の取り組みを選んで実施しています。2022 年にはほかの組織と協力して，慢性疾患，教育への障壁，避難民のニーズその他，多くの困難な問題に取り組むことに焦点を当てました。これらの取り組みでは，すべての人の自立と尊厳の回復を促す，サステナブルな解決策を構築することを重視しています。

2022 年，こうして焦点を当てた分野の一つが，小児栄養です。このきわめて重要なニーズに対応するべく，教会は国連世界食糧計画に 3,200 万ドルを寄付しました。これは，人道支援組織に対する 1 回の寄付金としては最多です。さらに，国際連合児童緊急基金 (UNICEF) に 500 万ドルの寄付を行い，世界規模の栄養キャンペーン「No Time to Waste」（一刻も無駄にしない）を支援しました。これらの寄付を合わせると，数十か国で約 200 万の人々を助けることになります。親が子供の栄養失調の兆候に気づき，必要な医療を受けられるように助けるべく，教会は引き続きほかの組織と協力し，教育および資金の提供を行います。

フィリピン，グアテマラ，ジンバブエ，マダガスカル，モザンビークの教会員は，地域の医療従事者や市民団体と協力して，栄養失調の兆候がないかどうか子供たちの検診を行っています。また，家族に働きかけ，栄養失調の様々な原因に対する解決策を開発してきました。意識向上キャンペーン，料理教室，栄養豊富な食品の入手，またワクチン接種や駆虫といった臨床サービスなどがそれに当たります。

2022 年，教会は，6 年目となる クリスマスキャンペーン「Light the World—世界に，光を」を実施しました。アメリカ合衆国の 23 の都市では，地域住民が 教会のギビング・マシーンに寄付することにより，世界中で助けを必要としている人々の生活を明るくしました。教会がそのマシーンの運用コストを負担したため，慈善団体は 人道支援活動に寄付されたすべてのお金を受け取ることができました。

今年は「Light the World—世界に，光を」に対する教会員および友人たちの寄付によって，食事や子供用の衣類，ポリオワクチン，貧困にあえぐ家族を助けるためのチキン，女性用衛生用品などが提供されました。世界中の人々からの寄付金は，総額で数百万ドルを上回りました。

「教会は今年，世界食糧計画 USA に 3,200 万ドルという歴史的な寄付を行いましたが，これは教会とその会員がいかにして日々信仰をもって生活し，奉仕に対する高潔な決意を守っているかを示しています。教会の惜しみない慈善活動により，わたしたちは何百万もの家族を支援し，安定とより良い未来への希望をもたらすことができるのです。」

—バロン・シーガー
世界食糧計画 USA 会長兼 CEO

上—新しい学校に喜んで通う南スーダンの幼い二人の子供

2022 年にもう一つ焦点を当てたことは，世界中の医療を改善することでした。アメリカ赤十字社は，教会からの 510 万ドルの寄付により，血小板の採取維持管理に用いる新しい機械を入手することができました。鎌状赤血球症に関する研究は，アフリカ系の地域社会の人々に過大な影響を及ぼすこの症状を和らげる助けとして不可欠なものです。本プロジェクトは，この病気を根絶するために行われている研究に献血者として参加してもらえるよう招き，黒人社会のより多くの人々の心を動かすことを目的としています。

新たな国で人生を学ぶ

アイブはわずか 6 歳にして，着る物のほかは何も持たず，両親とともに南スーダンから逃れることを余儀なくされました。彼らはやがて，コンゴ民主共和国のビリンギに避け所を見いだしました。

ユニセフの「Learning for Life」（ラーニング・フォー・ライフ）プログラムは，末日聖徒イエス・キリスト教会の資金提供により，アイブの教師たちに心理的ケアおよびコンフリクト・マネジメントに関する研修を提供することができました。教師たちはこれにより，アイブが新しい学校に溶け込むのを手助けする十分な備えができたのです。アイブは今，国から逃げ出してきた人々を助けられるように，いつか医者になるつもりだと言っています。

アフリカ／中東

- **食糧安全保障プロジェクト：94 件**
- **清潔な水の提供を受けた人：62 万 6,475 人**
- **車椅子の寄贈台数：4,785 台**

数百万平方マイルに広がるアフリカおよび中東は，美しく，文化的な活気に満ちています。ところが地域によっては，内戦のために高い比率で避難民が発生しています。

アフリカや中東では，多くの人が有意義な仕事を見つけるのに苦労しています。多くは，仕事や教育や訓練の場が足りないためです。避難民だからということで職探しが難航している人もいます。一部の地域では失業率が 60％と高く，貧困と飢えの度合いが高まる結果となっています。新型コロナウイルス感染症の高い感染率，ロックダウンの措置，供給不足によって，これらの要因はさらに悪化しているのです。

2022 年，教会は長期的なサステナビリティに焦点を当てた解決策を用いて，これらの問題に取り組みました。顕著な貢献としては，ケニアに暮らす 7,000 人以上の女性と子供たちがさらなる食料安全保障と身の安全を享受するのを助ける，Rural Entrepreneur Access Project（農村起業家アクセスプロジェクト）への寄付が挙げられます。また，教会が世界食糧計画へ寄付したことにより，エチオピア，ナイジェリア北東部，ソマリア，南スーダン，イエメンを含む 9 か国に暮らす，160 万人に栄養・食糧援助が行われました。

また，清潔な水および衛生プロジェクトを優先し，WaterAid（ウォーターエイド），Water for People（ウォーター・フォー・ピープル），その他評判の高い組織と協力して，干ばつに襲われた地域で水道システムの回復，試掘，また井戸の建設と深掘りを行ってきました。2022 年にはこれらの取り組みにより，アフリカおよび中東全体で 62 万 6,475 人以上が清潔な水と衛生設備を 利用できるようになりました。

中東およびアフリカにおける教会のもう一つの優先事項は，医療です。2022 年，これらの地域に住む 4,785 人が新しい車椅子を，1 万 1,586 人が移動補助具を受け取り，さらには 18 万 2,917 人が年度内に視力検査を受けました。そのほか，地元の医師や理学療法士向けのツールや研修プログラム，また農村部向けの車椅子修理店といった施設も，教会基金によって利用可能となりました。

「末日聖徒イエス・キリスト教会との提携は何年も前にさかのぼり，ここマラウイにおけるわたしたちの活動の基盤となっています。この影響力のある協力関係により，現在，多くの地域社会が清潔な水をサステナブルに利用できるようになりましたし，衛生面でも安全な設備を手に入れることができました。これらの村の子供たちは，自分の家族が清潔な水を得られなかった時のことを知らなくなるでしょう。」

—ウレム・チルジ
Water for People Malawi Country ディレクター

教育にかかわる取り組みについて，教会は教室を建設し，パソコンその他の備品を寄付し，トイレを造ることで，数十の学校を支援しました。こうした寄付により，何百人という学生の教育を受ける機会が改善されたのです。

教会は様々な組織と協力して，地域全体で複数の緊急事態に対応しました。例として，南アフリカで洪水の影響を受けた何千人もの人々を助けるために，建築資材や食料品，その他の必需品が寄付されました。また，ケア〔訳注—CARE。人道支援活動を行う NGO〕と共同でキャンプ地の上下水道システムを修復したことにより，何千人ものシリア難民がより安全に清潔な飲料水と衛生設備を利用できるようになりました。

セカンドチャンスをもたらした蜜蜂

若き父親ドハドは，シリアの家を追われた後，ヨルダンで再出発しようとしました。「来た当初は，生活がとても苦しく，ひどく落ち込みました」と話しています。

ドハドは幸いにも，イエス・キリスト教会とヨルダンの慈善団体アルジャフズとの共同プロジェクトを通じて支援を受けました。養蜂箱に加え，その管理方法についての研修が提供されたのです。

２年間で，ドハドは養蜂箱を２つから４つに増やすことができました。その利益によって，彼は家に移り住み，子供たちを学校に通わせています。ドハドはこう語ります。「蜜蜂のおかげで，収入を得て，人生でセカンドチャンスを得られたのは，光栄なことです。」[13]

アジア／オーストラリア／太平洋諸島

■ **緊急支援プロジェクト：51 件**

■ **支援を受けた学生：15 万 6,182 人**

アジア，オーストラリア，太平洋諸島において，人々の優しさに匹敵するのは，その風景の美しさのみと言えるでしょう。しかしながら，これらの地域に暮らす多くの子供と大人は，栄養関連の健康問題に苦しんでいます。この 1 年間，自然災害によって何千もの人々が基本的な支援を必要としました。

2022 年度，末日聖徒イエス・キリスト教会は Adventist Development and Relief Agency（アドベンチスト開発救援機構），Habitat for Humanity New Zealand（ニュージーランドを拠点とする NPO），Church World Service（チャーチ・ワールドサービス）などのグループと協力し，個人が自立して将来によりよく備えるうえで助けとなる解決策を提供しました。さらに，トンガでの大規模な火山噴火や津波といった自然災害の後，多くの住民が生活に欠かせない支援を受けました。

教会はまた，新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた地域を優先して，医療に力を入れました。一例として，モンゴルでは保健省その他，複数の組織と連携して，入院患者に毛布や衣類，寝具，酸素吸入装置，医薬品を提供しました。人道支援宣教師は，これらの取り組みを継続的に支援しました。

香港における新型コロナウイルス感染症第 5 波に対応して，Foodlink Foundation（フードリンク・ファウンデーション）は地元の教会員や宣教師らと協力し，寄付された 2.5 トンの食料品を助けの必要な人々に届けました。フィジーでは，1,000 世帯が食糧配給および地元農家への資金援助を受けたことにより，子供たちを養い，生活をよりよく維持できるようになりました。わたしたちは引き続き地元の援助団体と協力し，サステナブルな農業やそのほかの食料援助を促進しています。

さらに，教会は農村部における貧困を克服すべく，教育の必要性についても強調してきました。こうした地域にある幾つかの学校に，文房具や書籍，制服，手洗所などが提供されました。例として，ミクロネシア連邦にあるチューク高校の生徒たちは，ノートパソコンやミシン，スポーツ用品の寄贈を受け，教育の質を向上させることができました。カンボジアにあるトロップ中学校の生徒たちには，新校舎が贈られました。

「それこそ，わたしたちが〔教会と〕協力体制を築いている目的の中心を成すものです。世界中の子供たち，とりわけ最も被害を受けやすい困難な場所に暮らす子供たちに，影響を及ぼし，より広範囲に手を差し伸べることです。」

—レイチェル・スタインバーグ
UNICEF USA　グローバル・コーズ・パートナーシップ担当実務運営ディレクター [14]

清潔な水にかかわる取り組みは，この地域におけるもう一つの重要な人道支援活動です。パキスタンでは，記録的な洪水を受けて，15 の地域で 5 万人に浄水システムが提供されました。パキスタンのハーネーワール州では，45 の公立学校に 147 の手洗所および新しい衛生設備が提供されました。恩恵を受けた人々が，新しいシステムや施設をこの先長年にもわたって維持するためのスキルを身につけられるように，寄付には研修が伴いました。

障害のある人々の生活を改善する

2 児の父親である 42 歳のタタンは，インドネシアの小さな村に住んでいます。1 年前，彼は血液循環に影響を与える病気を発症し，脚の切断を余儀なくされました。脚を失ったことで，タタンは仕事を続けることができなくなり，支援を受けることになりました。

末日聖徒イエス・キリスト教会は，非営利団体である Yayasan Peduli Tuna Daksa（インドネシアにある団体）と協力し，2022 年にジャワ，スマトラ，カリマンタンで 500 本の義肢を提供しました。

その義足を受け取った一人がタタンです。タタンは，新しい脚で大工としての仕事に復帰できるのを楽しみにしています。

上—ドイツのフリードリヒスドルフにあるカリタスホームレス難民センターにて，家具にペンキを塗る奉仕宣教師のグループ

ヨーロッパ

- **避難民に生活必需品が提供された都市：50**
- **食糧安全保障プロジェクト：42 件**
- **協力団体：294**

2022 年は，武力衝突によってヨーロッパ各地に住まう多くの人々の日常生活が混乱に陥りました。末日聖徒イエス・キリスト教会が資金と物資の提供をもって対応する一方，ヨーロッパ中の教会員は集まって時間と手段を提供しました。

2022 年，教会はウクライナおよびロシア間における難局への対応として，1,680 万ドル以上の援助を行いました。

Jesuit Refugee Services（イエズス会難民サービス）や Project HOPE（プロジェクト・ホープ）といった主要な団体と協力し，教会指導者および人道支援宣教師は，ヨーロッパにおいて何千もの緊急避難物資，毛布，ソーラーランタン，テレホンカード，おむつ，衣類，その他の重要な救援物資を配布しました。

さらに，地元の指導者たちはウクライナで集会所を開放し，家を追われた人々が避難所や食料品，シャワーを利用できる中継所を設けました。紛争から逃れた人々はシャトルサービスを利用し，ポーランドやハンガリー，スロバキア，ルーマニア，その他の地域におけるウェルカムセンターに移動することができました。これらのウェルカムセンターでは，宣教師および会員によるボランティアらが手を差し伸べ，避難民が地元の援助機関とつながり，住居（多くの場合，地域内の教会員宅）を見つけられるようにしました。

教会はほかの組織と協力して，避難民の移送や住まいの手配を行いました。セーブ・ザ・チルドレンなどの非政府組織は，地元ルーマニアの組織とともに宣教師と力を合わせ，多くの孤児を含む，何千人ものウクライナ人の移動と住まいの手配を行いました。フランスの救援機関である Terre des Hommes との協力により，イタリアに住む避難民の子供と親が新たな地域に溶け込めるように，4,800 冊の日常会話集が提供されました。

ウクライナ政府の輸送ネットワークとの連携では，900 トンの食料品やその他の必需品が寄付され，最も飢えに苦しむ地域を支援するのに役立てられました。これは，ウクライナ内外の 1 万 1,000 人に 4 か月分の食糧を供給する目的で紛争の初期に世界食糧計画へ提供された資金とは，別に行われたものです。

「イエスは子供たちに優しい心を持っておられます。彼らが飢えに苦しんでいるのを見て，涙を流されます。そして，彼らを助けるほんの小さな努力でさえも喜ばれるのです。世界食糧計画と，この大義に何らかの形で貢献しておられるすべての方に，心から感謝します。」

—カミール・N・ジョンソン会長
中央扶助協会会長会 [16]

医療に焦点を当てた取り組みを通じて，ウクライナの病院および救急医療隊員に，何千という応急処置キット，医薬品，その他の重要な医療用品および機器が届けられました。この働きは，赤十字社，国際医療隊その他の組織との協力により成し遂げられたものです。教会の人道支援ファシリテーターは，Association of Neonatologists of Ukraine（ウクライナ新生児科医協会）と協力して，紛争中に病院の地下室で生まれた後，肺真菌症を患った乳児に抗生物質を提供しました。

また，ヨーロッパ南東部では，教育を受ける機会を改善しようと取り組みました。モンテネグロの農村地域にある学校（子供たちの自宅にインターネット環境が整っていない地域）に，新しいパソコン室用としてプロジェクター，スクリーン，プリンターを提供しました。ボスニア・ヘルツェゴビナでは，障害のある生徒たちのために，神経療法システムその他の重要な機器が提供されました。

危機的状況にある家族を助ける

2022 年，末日聖徒イエス・キリスト教会は複数の組織と協力して，ウクライナとロシア間の国境を越えてくる人々を援助しました。こうした避難民に，食料品，水，寝袋，発電機，テント，衛生用品，冬服が渡されました。

教会はまた，避難民の子供たちを対象とする幾つかのプロジェクトに貢献しました。地元の史跡や娯楽施設に出かけることを促すプログラムなどです。また，学校の制服や教科書，その他の用品が入っている学校用ボックスが子供たちに提供されました 。

北アメリカ

- **ホームレス状態の人々を支援するプロジェクト：880 件**
- **食料品その他寄付した物品の重量：5729 万 9,342 ポンド（約 2 万 6,000 トン）**
- **2022 年における医療関連の取り組み：21 件**

北アメリカに住んでいると，生命を維持する物品は手に入るのが普通ですが，地域内には，依然として基本的な必要を満たすのに苦労している人も大勢います。2022 年には，インフレ，経済不安，不動産価格の高騰により，多くの人が必要最低限以下の生活水準を余儀なくされました。そのため，ホームレス状態に追い込まれた個人や家族が急増しています。また，世界中で武力紛争や緊急事態が発生した結果，北アメリカに避け所を求める避難民の数も増加しています。

Catholic Community Services（カトリック・コミュニティーサービス），ギリシャ正教会その他の組織の取り組みに対して，教会は 500 万ドルの資金および生活必需品を差し出し，北アメリカの避難民に安全な仮設住宅が提供されました。教会員はまた，アメリカ合衆国のラスベガスやメサ，カナダのカルガリーなど，北アメリカにおける複数の都市でウェルカムセンターを運営しています。新たに到着した人々はウェルカムセンターにおいて，英語学習，求職活動，法的支援の紹介といった援助を受けることができます。

北アメリカでは食料不安が高まっており，人々の当面の基本的な必要を満たすことが重要な優先事項となっています。2022 年には，毎週数千キロの生活必需品が，米国およびカナダ各地のフードバンクに出荷されました。物資を輸送できない地域では，教会の人道支援宣教師がフードドライブの対応を行い，資金を提供し，助けの必要な人々を養いました。

Nevada Homeless Alliance（ネバダ・ホームレス・アライアンス）は，増加しつつあるホームレス状態の個人や家族を支援するに当たり，教会から大量の生活必需品の寄贈を受け，助けを必要としている人々が安全かつ安定した住居に移れるよう支援を行いました。また教会は，マサチューセッツ州ボストンにある Ella J. Baker House（エラ・J・ベーカー・ハウス）の再建に尽力しました。この青少年センターは，ホームレス状態にある多くの若者を支援する施設です。カナダにおいて，教会は Red Cedar Shelter（レッドシーダー・シェルター）や H.O.P.E. Society of LaSalle（ラサール H.O.P.E. 協会）などの組織と協力して，被害を受けやすい人々に避難所および住居を提供しました。

「末日聖徒イエス・キリスト教会とユタフードバンクの間には，100 年以上にわたるつながりがあります。……両者は，助けを必要としている人々，とりわけ食料難に直面している人々に手を差し伸べようと，協力して働いているのです。」

—ジネット・ボット
ユタフードバンク会長兼 CEO[16]

アメリカ合衆国の一部の地域では，清潔な水，電気その他の基本的なインフラが現在も利用できない状況です。教会は DigDeep（ディグディープ）といった組

織と協力し，ナバホ・ネイションのような設備の整っていない地域に清潔な水を提供することができました。地元の指導者はこれらの地域と協力して，地元の電力網や下水道網への接続を行いました。この働きにより，何百もの人々に祝福がもたらされたのでした。

医療アクセスの向上は，この地域における教会の焦点となっています。その他の代表的なプロジェクトとして，メキシコで行われた，1,670 人の障害者への車椅子贈呈があります。カナダでは，Weeneebayko Foundation（ウィーニーバイコ財団）その他の組織が，先住民の住む地域で医療体制が整うよう支援を行いました。アメリカ合衆国では，地元の指導者および人道支援宣教師が全米黒人地位向上協会（NAACP）と協力し，テネシー州メンフィスの建物を母子診療施設に改造しました。新しい施設で，母親たちは温かい食事を楽しみ，子供の世話について指導を受け，支えられているという感覚，新たな気持ちを抱いて帰ることができました。

教会はボランティアやカナダ赤十字社といった組織と協力し，2022 年に米国，カナダ，メキシコにおいて発生した幾つかの自然災害およびその他の緊急事態に対応しました。中にはフロリダを襲ったハリケーン「イアン」や，ソノラ，ケンタッキー，アラスカにおける壊滅的な洪水も含まれます。こうした災害の後，教会のボランティアは，寄付された何千もの食事，清掃キット，寝具，衣料品を被災者に配布しました。また，自治体の水道設備が故障した複数の地域を支援するため，清潔な飲料水その他の必需品も提供されました。

移民の子供たちの成長を支援する

ホアキンは，母国での紛争や困窮から逃れてきた，何千人もの子供たちの一人です。メキシコでは，移住者の数が増え続けて過密状態になっており，ホアキンのような子供たちへの援助手段が不足しています。

この問題に対する支援として，末日聖徒イエス・キリスト教会はセーブ・ザ・チルドレンに食料品，清掃キット，衛生用品を贈りました。

この寄贈により，900 人以上の大人，ならびにホアキンを含む 1,000 人以上の子供たちが，必要な食料品，水，衛生サービスを手にすることができました。

上—パラグアイのアスンシオンにあるバリオ・オブレロ総合病院への寄付を求める関係者たち

南アメリカ／中央アメリカ／カリブ海地域

- **視力検査の実施回数：1 万 733 回**
- **緊急支援が行われた国：22 か国**
- **食糧支援を受けた世帯：15 万 1,389 世帯**

人々のニーズは，南アメリカ，中央アメリカ，カリブ海地域，それぞれにおいて多様ですが，この地域における最近の経済不安は，複数の国に影響を及ぼしています。農村部での失業率は高くなっています。新型コロナウイルス感染症によるパンデミックの影響を受けて，多くの医療施設が機器や備品を必要としています。また，一部の地域では，自然災害による被害が発生し，何千人もの人々が家を失いました。

2022 年，教会は南アメリカの幾つかの地域において，医療インフラの改善を重点的に支援しました。地元の病院に寄付を行ったことで，南アメリカ各地の人々は加湿器，酸素マスク，個人用保護具，婦人科用機器，その他必要な医療用品を使用できるようになりました。

特筆すべきは，教会からの多額の寄付により，パラグアイのアスンシオンにあるバリオ・オブレロ総合病院が酸素生成プラントを設け，新型コロナウイルス感染症その他の呼吸器疾患に苦しむ患者の治療体制を向上させたことです。このプラントは，農村地域の外来患者および医療施設が酸素の必要を満たすのに役立ち，最先端の設計により操作およびメンテナンスが容易になっています。

教会の寄付により，障害のある何百人もの人々が車椅子を受け取り，また視力に問題を抱えている何百人という低所得者が，Vision Honduras Eye Clinic（ビジョン・ホンジュラス・アイクリニック）で治療を受けられるようになりました。フティアパのオスカー・アヤラ市長は，地域との協力体制について教会に感謝し，こう述べています。「こうした支援を受ける恩恵にあずかっていることは，フティアパ当局にとって非常に幸いなことです。」[17]

2022 年，教会はコロンビアその他の国々の農村地域で，飢えに苦しむ家族に対し，寄付された食料品を詰めたボックスを提供しました。アルゼンチンとチリにおいて，助けの必要な人々は，運営されている 9 つのビショップの倉から食料品その他の必需品を受け取ることができます。教会はまた，南アメリカ，中央アメリカ，カリブ海地域において，7 つの清潔な水・衛生プロジェクトに参加しました。その一つはドミニカ共和国におけるプロジェクトで，これにより，チリノという小さな町に暮らす 1 万 1,000 人が清潔な水を利用できるようになりました。

2022年，教会は若人の教育を改善する目的で複数のプロジェクトに投資しました。その一つが，ドミニカ共和国で行われた，ろう者のコミュニティー教育のためのシンポジウムです。ジャマイカの生徒たちにも寄付金が贈られ，それにより学校の周囲の境界壁が修復されました。その壁が，学校周辺の治安の悪い地域に対する防護壁となってくれたので，生徒たちはより安心して学習できるようになりました。

個人や家族が自立の度合いを高められるよう助ける取り組みの一環として，教会は幾つかの家庭に対し，自分のビジネスを立ち上げる，あるいは構築するための主要な機器を提供しました。さらに，女性と子供たちの避難所には，パソコン，キッチン用品（ピザオーブン，ダイニングテーブル，流し台，棚など），またスキルを身につけ，生計を立て，自立するのに役立つその他の備品が提供されました。

最後に，教会は各地域において緊急支援を行いました。ハリケーン「フィオナ」の後，グアドループ，プエルトリコ，ドミニカ共和国の6万5,000世帯に対し，自宅や地域の復興のための資金が提供されました。教会はまた，地域に深刻な洪水と地滑りを引き起こした豪雨の後，Office of the First Lady of Peru（ペルー大統領夫人事務所）と協力して，ペルーのハエンの住民に対し，9トン以上の食料品と水を提供しました。

グアテマラのパンソス市で140人が洪水により家を失った際には，その影響を受けた46世帯（子供，若者，高齢者を含む）に対し，必要な衣類を提供しました。また2022年，教会は世界食糧計画に寄付を行うことで，サプライチェーンの改善や気候変動への適応プロジェクトなど，カリブ海地域の長期的なサステナビリティ改善を目的とした幾つかのプロジェクトに資金を提供することができました。ハイチに暮らす人々が極端な降雨やハリケーンによりよく備えられるように，予測能力を向上させる取り組みなどがそれです。

***上の写真—**ハリケーン「フィオナ」の襲来後，互いに支え合うカリブ海地域の地元住民*

人生を良いものに変える

フレディは口唇裂の状態で生まれたため，授乳が困難でした。家族に課された経済的な負担は大きくなっても，フレディの健康を維持するためには粉ミルクが必要であるため，両親は懸命に働きました。

Operation Smile（オペレーション・スマイル）は，末日聖徒イエス・キリスト教会から資金提供を受け，フレディの母国であるブラジルでプログラムを実施し，フレディのように必要な治療を受けるのが困難な個人を特定して治療し，手術を提供することができました。

こうした取り組みのおかげで，フレディと似た境遇にある何百人もの人々が必要な手術を受け，健康な子供および大人に成長できるようになりました。

自立を育む

「物質的に備えられ，自立するとは，『イエス・キリストの恵み，すなわち人に能力を授ける力や，自分自身の努力により，人生において，物質的・霊的に必要なすべてのものを自分や家族のために得られると信じること』を意味します。」

—W・クリストファー・ワデルビショップ，管理ビショップリック第一顧問[18]

環境に対する管理責任

- **2018 年以降の教会本部における水使用量の年間削減量：3,800 万ガロン（約 1 億 4,400 万リットル）**
- **現在太陽光発電の取り組みを行っている世界各地の集会所：500 以上**
- **2022 年にデゼレト産業が処理したリサイクル製品：7,300 万トン**

国連の持続可能な開発目標に関する 2022 年の会議で，L・タッド・バッジビショップはこう語りました。「〔地球の〕良い管理人として行動するなら，世界中の兄弟姉妹の必要を満たすのに必要な資源は満ちています。」[19]

教会の会員は，地球を大切にすることが，助けを必要としている人々を大切にすることと密接に結びついていると信じています。教会の人道支援プロジェクトでは，可能なかぎり地元の資材が用いられますし，サステナブルな解決策が確実に実施されるよう，慎重な選択が行われます。教会員は毎年何百もの環境プロジェクトに参加し，地域社会で植林や清掃活動を行っています。こうした取り組みが，地球を守り，将来の世代のための備えとなること，また助けの必要な人々が地球の資源をより容易に利用できるようになるうえで役立つことを，わたしたちは信じています。

2022 年 10 月の総大会における説教で，ジェラルド・コセービショップはこのように語っています。「神の子供として，わたしたちは，神の神聖な創造物の管理人，世話人，擁護者となる責任を任されています。主は，『被造物のために造って備えたこの世のもろもろの祝福に対する管理人としての責任を，すべての人に取らせること〔にした〕』と述べておられます。」[20]

教会は長年の間，教会の資産およびインフラが環境に与える影響の低減に努めてきました。この取り組みには，既存のシステムをより環境にやさしいものに改良すること，芝生の面積を狭くすること，サステナブルな建築手法を用いることなどが含まれています。輸送コストの削減，地域経済の支援，排出量の削減を目指し，地元の造園や建材を取り入れるよう努めています。また，世界規模で保有車両の燃料効率基準を引き上げることにより，排出量を削減しました 。

さらに教会は，所有している農場，果樹園，牧場において，サステナブルな土地管理を実践することで，環境に対する管理責任をさらに推し進めました。実践内容としては，被覆作物，輪作，不耕起栽培，放牧管理，温室効果ガス回収方法の活用が含まれます。土壌管理に関する指針は，炭素固定量を最大化し，可能なかぎり既存の材料を活用するうえで役立ちます。

廃棄物の削減に関しては，使い捨てプラスチックの使用を減らし，教会施設でのリサイクル量を増やすことを目標としています。2022 年，教会の施設は 4,000 トン以上の紙，金属，段ボール，プラスチックをリサイクルしました（デゼレト産業を通じてリサイクルされた 7,300 万トンを除く）。

最後に，ネルソン大管長の次の勧告に従うよう，会員の皆さんにお勧めします。「地球を大切にし，地球の賢い管理人となり，後代の人々のために地球を守らなければなりません。そしてわたしたちは互いに愛し合い，関心を示し合う必要があります。」[21] 会員は，エネルギーの節約，リサイクル，廃棄物の削減，公共交通機関またはアクティブな交通手段（徒歩や自転車など）の選択，家庭菜園や市民農園における作物の栽培，節水（とりわけ干ばつの影響を受ける地域）など，様々な方法で環境に対する管理責任に取り組んでいます。

教育プログラム

- **新設または修理された教室：342**
- **恩恵を受けた学生：200 万人以上**
- **学資援助受給者：4 万 2,227 人**

わたしたちが信じているのは，学びは生涯求め続けるべきものであること，すなわち，わたしたちを神に近づけ，尊厳と自立の度合いを増してくれるものであるということ です。

教会員のためのサービス

永代教育基金などの財政支援プログラムにより，52 か国，5,757 人の教会員が，2 年間にわたる職業訓練プログラムに登録することができました。より良い職に就いたり，自分のビジネスを始めたりするうえで助けとなる内容です。ベンソン奨学金プログラムでは，23 か国，443 人の生徒が，農業関連分野の高等教育を受けるに当たり，支援を受けました。

教会はまた，BYU パスウェイ・ワールドワイドを運営しており，ブリガム・ヤング大学アイダホ校およびエンサインカレッジと連携して，手頃な価格でオンライン教育を提供しています。さらには EnglishConnect（イングリッシュコネクト）プログラムが，世界中の幾つかの国および地域で利用可能となっています。英語の無料指導を提供することにより，個人が教育や雇用の機会を改善できるよう助けるものです。

一般に提供されるサービス

教会は毎年何百もの人道支援プロジェクトを実施し，助けの必要な人々にさらなる教育の機会が提供されるようにしています。例として，ロシアのニジニ・ノヴゴロド地区では，地元の赤十字社とのプロジェクトにより，社会的弱者に該当する生徒 200 人にリュックサックと学用品を提供しただけでなく，家族が新学期に向けて準備をするのを助けるためのイベントも実施しました。

レバノンにおいて，教会は Jusoor（ジュスール）と協力し，国営公立学校に入学するために学生が必ず合格しなければならない，ブルベ試験に向けた準備クラスを設けました。このプロジェクトは，避難民となったシリアの学生が学業を続けるうえでの障壁を乗り越える助けとなり，また学生たちの試験成績の平均を劇的に向上させてくれました。

学生の成功を可能にする

ジンバブエ出身の学生エドナは，2021 年後半，BYU パスウェイに登録しました。最初の学期は一生懸命に勉強し，良い成績を収めました。しかし，次の学期の学費の捻出方法については，見当もつきませんでした。

幸いにも，エドナはヒーバー・J・グラント奨学金を申請することができました。これは 2022 年に導入された新しいプログラムで，困窮している学生が BYU パスウェイによる教育を受けるうえで，財政援助を受けられるようにするものです。

この援助により，エドナは仕事と家庭の両立を保ちつつ，公認会計士になるという目標に向かって前進することができました。エドナはこう話しています。「BYU パスウェイに登録しただけで，思いも寄らない，すばらしいことがたくさん起こるのを目の当たりにしました。」[22]

食料の生産と配布

- **寄付された食料：5,730 万ポンド（約 2 万 6,000 トン）**
- **1 日分に換算した食料の生産量：約 1,430 万人分**

末日聖徒イエス・キリスト教会の会員は，自立の原則を実践しており，ほかの人々が同じく自立するのを助けようと努めています。とはいえ，飢えや差し迫る物質的な必要に直面している多くの人々にとって，短期的な必要が解決されないまま，長期的な自立に集中することは困難です。教会は様々な解決策によって，こうした状況にある人々を助けようとしています。

教会員のためのサービス

教会は，助けの必要な人々のために食料を生産する方法として，12 の農場，3 つの菜園，3 つの牧場，4 つの果樹園を運営しているほか，デゼレト製粉・パスタ工場も運営しています。2022 年，これらの施設はビショップの倉を経由して，教会員や助けの必要な人々に 4,830 万ポンド（約 2 万 2,000 トン）の食料を提供しました。

ほかの地域社会の取り組みと同様，教会は 124 のビショップの倉を運営しています。加えて，地元の指導者が困窮している人を紹介し，食料品などを無料で受け取ることができるよう手配する場所も設けています。教会が運営する倉および家庭貯蔵センターは，ほぼすべて奉仕宣教師によって管理されています。商品の発注，品出し，注文への対応，施設の清掃，また利用者への親切かつ愛ある支援を行うのは，ボランティアたちです。ビショップの倉から物資を入手できない場所では，指導者が地元の食料品店と調整し，教会員の必要を満たす場合が多くあります。

一般に提供されるサービス

サステナブルな食料生産技術および資源を開発することは，個人と地域社会，両方の自立を育むうえで役立ちます。こうした技術を奨励する手段として，教会のボランティアは全米黒人地位向上協会（NAACP）のメンバーと協力し，サンフランシスコのフローレンス・ファング・コミュニティー農場に節水型の灌漑システムを設置しました。このプロジェクトは，恵まれない地域に暮らす 100 世帯を支援するものであり，2022 年に教会が支援した，この種の地域農園プログラムの一つです。

ビショップの倉からの配布とは別に，5,730 万ポンド（約 2 万 6,000 トン）の食料品が，地元の食料配給所を含む人道支援団体を通じて寄付されました。例として，教会は，ニューヨーク市の Christian Cultural Center（キリスト教文化センター）が運営する食糧支援プログラムにおよそ 4 万ポンド（約 18 トン）の食料支援分を寄付しました。この寄付は，助けを必要としている人々に 2 つの拠点で食料を提供するのに役立ち，毎週約 1,250 人の人々が，新鮮な野菜や肉などの必要な食料品を受け取ることができました。

アリゾナ州のマリコパ・フードパントリーで火災が発生し，5 万ポンド（約 22.7 トン）近くの物資が焼失した際，地元の末日聖徒は集まり，何ができるかを考えました。その後程なくして，教会による生活必需品を積んだセミトラック 2 台がフードパントリーに到着しました。マリコパ・フードパントリーは地域住民に食料を提供するだけでなく，食品の調理や食料貯蔵，自立について教えるクラスを開くためのスペースを確保したうえで，再建される予定です。

教会は，食料の生産と貯蔵に関するこれらの取り組みにより，危機的な状況に陥った際に利用できる，重要

な物資の在庫を維持することができるのです。教会は結果として，自然災害や紛争，その他の緊急事態が発生した際に，支援の手を差し伸べる準備が整っています。

教会は現地の援助団体と協力し，可能なかぎり最も効率的かつ効果的な方法で緊急物資を調達し，配布します。すなわち，現地で入手可能な食料を調達するための資金を提供する場合もあれば，北アメリカで生産された食料を送って配布する場合もあるということです。例として，カリブ海を襲ったハリケーン「イアン」の後，教会は米や豆，パスタ，その他の食料品を 9 つの輸送コンテナで送り，現地の援助団体を通じて配布しました。

教会はこうした寄付によって，個人や家族が短期的な必要を満たせるようにしています。それから彼らが将来に向けて，長期的な自立を育むことに集中して取り組めるよう支援することを目的としているのです。

カンザスシティーにおける食料品の寄付

ミズーリ州インディペンデンスにある Community Services League（コミュニティーサービス連盟）は，助けの必要な人々を速やかに救済し，経済の安定につながる解決策を提供することにより，地域社会が潜在能力を発揮できるよう助けます。2022 年 1 月，教会はカンザスシティー地域に 10 万ポンド（約 45 トン）以上の食料を贈りました。最初の配送分は，Community Services League（コミュニティーサービスリーグ）に届けられました。数週間後には，8 万ポンド（約 36 トン）の食料が Harvesters Community Food Network および Redemptorist Social Services Center（ともにカンザスシティーにある非営利団体）に提供されました。

ミズーリ州知事のマイケル・パーソン氏はこのように述べています。「ミズーリ州の住民が助けを必要としているときや悲劇に見舞われたとき，わたしたちの地域社会は，末日聖徒イエス・キリスト教会の会員に助けの手を差し伸べてもらえることを知っています。」[23]

ファミリーサービス

- **カウンセリングの時間：合計 19 万 5,491 時間**
- **奉仕を行った国と地域の数：90**
- **依存症立ち直りグループへの参加者：34 万 6,664 人**

精神的・情緒的健康 は，個人や家族，地域社会が焦点を当てるべき重要な事項となっています。ファミリーサービスは教会主催の組織であり，社会的また情緒的な必要を抱えている人々に対し，効果的な治療およびリソースを提供する支援を行っています。教会員個人，家族，夫婦，親になろうとしている独身者，教会で奉仕している宣教師にカウンセリングを提供します。彼らのニーズは，一時的な試練にかかわるものから，進行中の精神的あるいは情緒的な問題にかかわるものまで，様々かもしれません。

依存症立ち直りプログラムは，教会のファミリーサービスの組織を通じて提供されるリソースの一つです。このプログラムは，依存行動に苦しむ人々だけでなく，彼らを愛する人々を支援します。教会員かどうかにかかわらず，すべての人がこの無料プログラムを利用できます。このプログラムはボランティアの進行役によって，世界各地で行われています。その多くは，自身が依存症関連の問題から立ち直った経験を持つ人々です。

心理的応急処置は，自然災害や武力衝突といった危機に直面している人々を助ける際の緊急対応において，重要な要素を占めています。ファミリーサービスは，訓練を受けたスタッフおよびボランティアを通じて，世界中で心理的応急処置のスキルを教え，提供する活動を行っています。2022 年，ファミリーサービスチームは，危機に際して成人や青少年，子供にミニスタリングを行う方法について，個人を訓練するためのリソースを小冊子にまとめて発行しました。

これらのリソースは，家を追われた人々にとって，とりわけ助けとなるものです。ボランティアおよび奉仕宣教師は，心理的応急処置の訓練を活用して，こうした助けの必要な人々に情緒的な支援を提供しています。これは，物理的な援助を提供するのとまったく同様に重要な支援です。

推し進める者を築く

2022 年，ファミリーサービスは，世界各地で人道支援プロジェクトを支えている指導者，会員，宣教師，精神医療従事者を対象に，心理的応急処置の指導を行いました。ハイチにおけるそのようなプロジェクトの一環として，マルセウスとエマニュエルは，精神医療従事者向けの月例訓練およびサポート集会に出席しました。

そうした集会について，マルセウスはこう書いています。「わたしは訓練内容に心から満足しています。ほんとうに助かっています。妻や子供たちにとっても，地震で大地が揺れる際，平常心でいるのに役立ちます。」

エマニュエルはこう書いています。「特にわたしが住んでいる国で，こうした内容を学ぶ機会をさらに多くの人にもたらせることを光栄に思い，うれしく感じています。ほとんどの人がいまだ不安を感じており，精神的な助けを大いに必要としています。」

自立コース

- **自立グループの数：1 万 4,186**
- **参加者：10 万 6,261 人**
- **提供された国と地域の数：88**

自立コースは，教会員が自分の必要に対処するに当たって力をもたらす原則とスキルを学ぶのに 役立ちます。コースには，仕事を見つける方法，ビジネスを始める方法，財政を管理する方法，レジリエンスを高める方法，といったテーマがあります。クラス内容には，毎週の読書課題，話し合い，他のグループメンバーとやり取りをすることが含まれます。

教会は 2022 年，世界 88 か国で 1 万 4,186 の自立グループを進行しました。これらのグループは 10 万 6,261 人を超える人々にサービスを提供しました。そのうちの 一人がジャッキーです。ジャッキーはカリフォルニアで写真ビジネスを営む教育者です。彼女は 3 つの仕事と 1 つのビジネスと家族への対応をこなす中で，多くの不安とストレスを感じていました。自分の感情をもっと上手にコントロールできるようになりたいと思っていたジャッキーは，レジリエンスのコースに通い始めました。コースを修了した後，ジャッキーはほかの参加者たちの助けによって新たな希望を見いだし，以前に比べて人生のチャレンジに立ち向かう備えが整っていると感じたことを伝えています。

スティーブは，オピオイド〔訳注—強力な鎮痛薬〕依存症に苦しんで仕事を失った際，同様の問題に直面しました。働けなくなったため，本人も家族も経済的に困窮することになります。スティーブの職場復帰に伴い，彼は妻と個人の財政管理コースに参加することにしました。コースで学んだ習慣は，スティーブ夫妻が負債をなくすという目標を達成するのに役立ちました。それだけでなく，二人は十分な貯蓄をもって新しい家を購入し，家族を養ううえで必要な経済的な安定を得ることができたのです。

人生のチャレンジに対処するスキルを身につける

スイスでは，ケリーと彼の妻のマリアが，地元の会員数人のためにレジリエンスコースを実施しました。当初は参加をためらいましたが，このコースはケリーとマリアが情緒的なチャレンジについて学ぶのに役立ちました。

注意欠陥多動性障害（ADHD）とうつ病の影響で情緒的に苦しむ，自分たちの息子を助けようと尽くす中で，学んでいる内容が有益であることが分かりました。それは，ケリーがその直後に初めて不安発作を起こした際に，山場を迎えました。

ケリーは次のように語っています。「呼吸のコントロールなど，わたしたちが話し合っていた幾つかの原則に戻ることができました。救い主の錨とレジリエンスの原則にしっかりとつかまっている人は，奇跡を起こすことができるのです。」

雇用サービスとデゼレト産業

- **就職実績数：4,127**
- **デゼレト産業で働いた人：9,186 人**
- **製作された家具：7 万 7,330 点**

わたしたちが信じているのは，人々が自立の度合いを高められるように支援することで，自分自身の選択の能力が高まるということです。雇用サービスは，教会員が仕事を見つけ，ビジネスを始め，キャリアアップするのを助けるためのツールおよびコーチングを提供します。

2022 年には，何千人もの求職者がセルフヘルプリソースにアクセスし，求職活動のスキルとネットワーキングの向上に焦点を当てたグループに加わりました。雇用サービスを通じて，人々は履歴書の作成方法，面接の受け方，仕事の探し方といったスキルについて学びました。例えば,「Active Job Search」(アクティブ・ジョブ・サーチ）プログラムは，新しい仕事やより良い仕事を探している人のためのネットワークツールとして機能します。プログラムの利用者は，求人情報を共有し，サポートを受け，求職活動のスキルを実践します。

デゼレト産業（DI）は，教会員その他の人々が雇用の障壁を克服できるよう助けます。これらの障壁としては，身体的な障害，精神衛生上の問題，犯罪歴，依存症歴などが挙げられます。デゼレト産業およびデゼレト製造は，オンザジョブ・トレーニングで新たなスキルを学ぶことのできる安全な場所を提供します。そこで働く人は，レジの操作に在庫チェック，フォークリフトの操作から家具の製造に至るまで，すべてを学ぶことができるのです。

スキル訓練に加え，働く人々は育成カウンセラーの支援を受けて目標を設定し，それらの目標を達成するための計画を練ります。またデゼレト産業は，教育や訓練のための資金援助も行います。新しい仕事を探す準備が整っているDIの従業員は,6週間の求職スキルワークショップや個別のマンツーマン指導など，別の雇用サポートを受けることができます。

デゼレト産業は生活必需品を手頃な価格で提供することにより，地域社会を支援します。助けの必要な教会員は，ビショップからの紹介により，靴，衣類，家具，その他の必需品を無料で入手することができます。デゼレト産業はそのほか，地域社会への貢献として，認定された非営利団体が地域で使用する物品を無償で取得するための助成を行っています。2022 年，デゼレト産業はこのような助成を 1 万 2,954 回行いました。

デゼレト産業のリサイクルショップおよび地域の寄付モデルにより，毎年何百万キロもの物品を埋め立て地へ運ばずに住んでいます。販売できない物品はリ

「わたしたちが神と隣人を心から愛するには，まずは神の子供として，わたしたちに対する神の愛を感じる必要があります。自分に対する神の愛を感じるとき，わたしたちはそのお返しに神を愛したいと思うのです。」

—クリスティン・M・イー姉妹
中央扶助協会会長会第二顧問 [24]

サイクルされます。2022 年だけで，デゼレト産業は，7,301 万 9,376 ポンド（約 3 万 3,000 トン）の寄付品を埋め立て地に送ることなく，リサイクルに回すことができました。

デゼレト産業は，リサイクルショップに製造施設，寄付センターに至るまで，人々の能力を高め，機会を増し加えるために構築された，職業訓練プログラムを中核としているのです。教会は現在，8 つの州で 46 の DI リサイクルショップと寄付センターを運営しています。2022 年には，デゼレト産業の最新店舗がユタ州サラトガスプリングスで奉献され，営業が開始されました。

コーチングによって仕事を見いだす

入社数年後に失業したダスティンは，新たな職探しをどこから始めればよいのか分からずにいました。ダスティンの姉は，「Active Job-Search」（アクティブ・ジョブ・サーチ）のグループに加わるよう彼に勧め，努力するなら，このプログラムは必ず役立つと力説しました。

ダスティンは自分の暮らす地域内で一つのグループを見つけると，志望者として自分をよりよく売り込む方法を学び始めました。コーチとの毎週のミーティングでは，履歴書を作成し，面接の準備と練習を行い，ネットワーキングに時間を費やしました。

ダスティンは数週間後，かつての仕事仲間と連絡を取った末，仕事を見つけることができました。「コーチングがなかったら，そして，自分が行動を起こしていなかったなら，仕事を得ることなどできなかったでしょう」と，ダスティンは話しています。[25]

トランジショナル・サービス

- **支援を受けた人：7,464 人**
- **ボランティアの奉仕時間：3 万 1,870 時間以上**

人々は地域社会に溶け込むうえで，支援を必要とすることがあります。これには，矯正施設を出た人，ホームレス状態にある人，密売から立ち直った人，あるいは退役軍人，移住してきたばかりの人，母国から逃れてきた人などが挙げられるでしょう。トランジショナル・サービス〔注：一時的に生活支援をする教会本部でのサービス〕は，こうした人々—教会員と地域社会に暮らす人々の双方—が，人生で新たな一歩を踏み出す際の支援を提供します。

トランジショナル・サービスは，自立へ向けた総合的なアプローチを重視しており，スタッフはクライアントと協力して核心的な問題に取り組み，情緒的な支援を提供します。トランジショナル・サービスはアメリカ合衆国内の 7 拠点で運営されており，物質的，精神的，また霊的な援助を提供しています。クライアントは，トランジショナル・サービスの雇用者，奉仕宣教師，ボランティア（地元の教会員を含む）など，様々な人から支援を受けます。

その後，雇用サービスやデゼレト産業など，別の支援機関に紹介されることもあります。また，自立への長期的な道のりを支援するために，ほかの非営利団体，メンタルヘルスにかかわる診療科，あるいは地域団体を紹介される場合もあります。

助けを受ける人には，ほかの人々に奉仕する機会も与えられます。ほかの人の役に立てることを知ると，幸せな気持ちを感じられるのです。

再起の助けを受ける

キティ* は，高機能統合失調症および慢性的なホームレス状態と長年闘った末，ユタで新たな生活を始める決意をし，徒歩での長旅に出ました。ユタに到着すると，同じく住む家を失った経験のある人々が，トランジショナル・サービス事務所への行き方が分かるよう手伝ってくれました。

トランジショナル・サービスの職員は，キティに食べ物と服，そのほか必要なものを提供しましたが，キティが最も求めているのは友情と愛情であることに気づきました。こうして，デゼレト産業でボランティアができるよう助けを受けたキティは，そこで友だちをつくり始めました。すると，怒りや投げやりな気持ちが徐々に薄れていったのです。

しばらくして，キティは仕事に就いてみようという気持ちになりました。トランジショナル・サービス事務所は彼女に雇用サービスを紹介し，彼女はそこで履歴書作成の支援を受けました。この支援により，彼女はさらに自主性を育み，自立に向かうことができたのです。

** 仮名*

わたしにできること

「奉仕をしているとき，わたしたちは自分のことをあまり考えません。そのようなとき，わたしたちは聖霊の訪れを受けやすく，慈愛の賜物を授かるという生涯の探求において助けを得られるのです。」

—ヘンリー・B・アイリング管長，大管長会第二顧問 [26]

地域社会での奉仕

奉仕するよう促しを感じたら，以下のステップを踏むことで，最も良い影響をもたらすことができます。

1．必要を見極める

始めるに当たって最善の方法は，周りを見回し，地域社会に存在する必要を見極めることです。

- 自分が持てる影響力の範囲内で，最も必要とされていることを優先する。
- 地元における組織やプロジェクトを探し，学ぶ。
- 奉仕は常に，人々に対する神の愛を反映したものであるが，個人の信仰をほかの人々に押しつけるという意図をもって行うべきではない。善行に語らせるようにする。

「多くの場合，わたしたちの行動をほかの人々は見ていませんし，知りません。しかし，神は御存じであり，わたしたちが目に見えない静かな方法で奉仕するときに祝福してくださるのです。」

—スーザン・H・ポーター会長
中央初等協会会長 [27]

2. 耳を傾けて学ぶ

時間を取り，ある問題によって最も影響を受けている人々の話に耳を傾けましょう。耳を傾け，周囲の人々が直面している障壁について理解しようと努めることで，有意義な支援を提供する方法を学ぶことができます。

- 仲間として，対等な立場で個人とかかわりを持つ。人々の目を見て，名前を呼び，手を差し伸べる。
- 自分の思い込みを疑い，偏見を捨て，心から理解しようと努める。
- 意見の違いよりも，関係を優先させる。

3. 計画を立てる

最も効果的な人道支援とは，個人や地域社会を巻き込みつつ，差し迫る必要を満たし，自立へと至る道筋を示すような解決策を計画することです。

- 支援しようとする人々の好みや信条，慣習を尊重する。
- あなたが奉仕している人々に計画を助けてもらうため，以下のような質問をする。:

  この必要に対処するため，あなたはこれまでに何を試みましたか？

  試してみたいことはありますか？

  どのように，いつ，どこで支援を受けたいですか？

4. 経験を分かち合う

行動するよう人々を招き，鼓舞するために，自分の経験を分かち合います。達成した奉仕の行いを認め，分かち合い，称賛する機会を持つことは，あなたが助ける人々への励ましとなりますし，さらに多くの人々が奉仕を行うきっかけとなります。

- 自分の人道支援活動について，友人や家族に話す。一緒に参加するよう招く。
- ソーシャルメディアのページで，自分が目の当たりにした奉仕による祝福について紹介する。自分の生活にもたらされた祝福，自分が奉仕した人々の生活にもたらされた祝福，両方に触れる。
- 地域社会で協力した非営利団体のソーシャルメディアページとつながりを持つ。彼らと有意義な経験を分かち合う。

さらに学ぶためのリソース

世界各地における人道支援活動の**情報を得る**，また地域社会での活動に参加するには，以下をフォローしてください。

@Caring.ChurchofJesusChrist
@DeseretIndustriesThrift
@JustServe.org

@Caring.ChurchofJesusChrist
@DeseretIndustries
@Just_Serve

左の QR コードから JustServe アプリをダウンロードし，あなたの地域で地域奉仕プロジェクトを始めましょう。

詳細については，以下のリンクにアクセスしてください。

ChurchofJesusChrist.org | Caring.ChurchofJesusChrist.org| JustServe.org | DeseretIndustries.org | AddictionRecovery.ChurchofJesusChrist.org

参照文献

1. ラッセル・M・ネルソン「わたしたちが学んで忘れないこと」『リアホナ』2021 年 5 月号，79
2. Kym Reichart, in “Places of Refuge from the Storm,” news-uk.churchofjesuschrist.org/article/places-of-refuge-from-the-storm.
3. L・タッド・バッジ「聖きを主にささげる」『リアホナ』2021 年 11 月号，101
4. Christina Foote, in “Latter-day Saints in Europe Receive Blessings through Blessing Others,” news-uk.churchofjesuschrist.org/article/latter-day-saints-in-europe-receive-blessings-through-blessing-others.
5. ラッセル・M・ネルソン「今がその時である」『リアホナ』2022 年 5 月号，126
6. Julia Wondra, in “How the Church, its Leaders and Members in Europe Are Providing Aid and Relief in the Humanitarian Crisis Caused by Armed Conflict,” thechurchnews.com/2022/3/6/23216823/how-the-church-its-leaders-members-in-europe-are-providing-aid-and-relief.
7. Sylwia Selewska, in “As Conflict in Europe Enters a Fourth Month, the Saints Continue to Serve Refugees,” newsroom.churchofjesuschrist.org/article/poland-ukraine-refugees-four-months.
8. Hana Debebe Hailu, in “The Fruits of Service: Latter-day Saint Youth in Ethiopia Plant 200 Fruit Trees,” thechurchnews.com/global/2022/10/5/23386120/ethiopia-youth-plant-200-fruit-trees.
9. ダリン·H·オークス「貧しい人や困っている人を助ける」『リアホナ』2022 年 11 月号，7
10. Gérald Caussé, “The Blessings Will Follow: Benefits of Implementing JustServe,” churchofjesuschrist.org/study/video/justserve-videos/2020-10-0100-the-blessings-will-follow-benefits-of-implementing-just-serve-1080p?lang=eng.
11. Patti Evershed Peterson, in “How Service Became the Silver Lining in a Terminal Cancer Trial,” thechurchnews.com/2022/1/30/23218832/cancer-service-justserve-festival-of-trees-patti-peterson.
12. Len Gierach, in “Latter-day Saints Join World Interfaith Harmony Week Celebrations,” news-ca.churchofjesuschrist.org/article/latter-day-saints-join-world-interfaith-harmony-week-celebrations.
13. Dohad Mohamad Alsholbi, in “How Bees and Goats Are Changing Lives in Jordan,” news-middleeast.churchofjesuschrist.org/article/how-bees-and-goats-are-changing-lives-in-jordan.
14. Rachel Steinberg, in “Light the World Giving Machines in 2021 Yielded Nearly US$6 Million in Donations,” newsroom.churchofjesuschrist.org/article/giving-machines-2021.
15. Camille N. Johnson, in “Church Gives $32 million to World Food Programme in Largest One-Time Donation to Date,” thechurchnews.com/global/2022/9/14/23353487/church-gives-32-million-dollars-to-world-food-programme-largest-one-time-donation-to-date.
16. Ginette Bott, in “Silicon Slopes Packages 1 Million Meals for Utah Food Bank,” newsroom.churchofjesuschrist.org/article/million-meals.
17. Oscar Ayala, in “La Iglesia de Jesucristo dona equipo medico a clínica del ojo en Jutiapa, Honduras,” noticias.laiglesiadejesucristo.org/articulo/la-iglesia-de-jesucristo-dona-equipo-medico-a-clinica-del-ojo-en-jutiapa-honduras.
18. W・クリストファー・ワデル「食物があった」『リアホナ』2020 年 11 月号，44
19. L. Todd Budge, “The Divine Gift of Creation: Our Sacred Duty to Care for the Earth,” newsroom.churchofjesuschrist.org/article/bishop-l-todd-budge-sacred-duty-care-for-earth.
20. ジェラルド・コセー「わたしたちの現世での管理人の職」『リアホナ』2022 年 11 月号，57
21. ラッセル・M・ネルソン「創造」『リアホナ』2000 年 7 月号，104
22. Edna Mafuvuke, in “By Small and Simple Things,” blog.pathwaynewsroom.org/2022/03/edna-mafavuke/.
23. Michael Parson, in “Food Donations for Local Charities Received by Missouri Governor,” newsroom.churchofjesuschrist.org/article/food-donations-for-local-charities-received-by-missouri-governor.
24. Kristin M. Yee, in “New Deseret Industries, Welfare, and Self-Reliance Services Facility Dedicated in Utah,” newsroom.churchofjesuschrist.org/article/new-deseret-industries-welfare-self-reliance-services-facility-dedicated-in-utah.
25. Dustin Ray, in “How Church Employment Services Helps People Find Jobs and a Connection to the Savior,” thechurchnews.com/2022/2/25/23216701/church-employment-services-helps-unemployed-people-find-jobs-self-reliance-connection-to-savior.
26. ヘンリー·B·アイリング「霊感に基づくミニスタリング」『リアホナ』2018 年 5 月号，64
27. Susan H. Porter, in “Presidents Johnson and Porter Meet with Government Leaders on Women’ s Issues in South America,” newsroom.churchofjesuschrist.org/article/presidents-johnson-and-porter-meet-with-government-leaders-on-womens-issues-in-south-america.
28. ラッセル・M・ネルソン「大切な第二の戒め」『リアホナ』2019 年 11 月号，97

「主の民と呼ばれたいと心から願っており『互いに重荷を負い合うことを望み…… 悲しむ者とともに悲しみ，慰めの要る者を慰めることを……望んでいる』のです。」

—ラッセル・M・ネルソン大管長，末日聖徒イエス・キリスト教会大管長[28]

末日聖徒
イエス・キリスト
教会

© 2023 Intellectual Reserve, Inc. All rights reserved. バージョン：2022 年 10 月。 原題：Welfare 2022 Annual Report. Japanese. PD80009154 300. 印刷：アメリカ合衆国